

正の実数 t に対して、座標空間における 4 点 $O(0,0,0)$, $A(t,0,0)$, $B(0,1,0)$, $C(0,0,1)$ を考える。このとき、次の間に答えよ。

- 四面体 $OABC$ のすべての面に内接する球 P の半径 r を t を用いて表せ。
- t が動くとき、球 P の体積を四面体 $OABC$ の体積で割った値の最大値を求めよ。

[解]

(1)

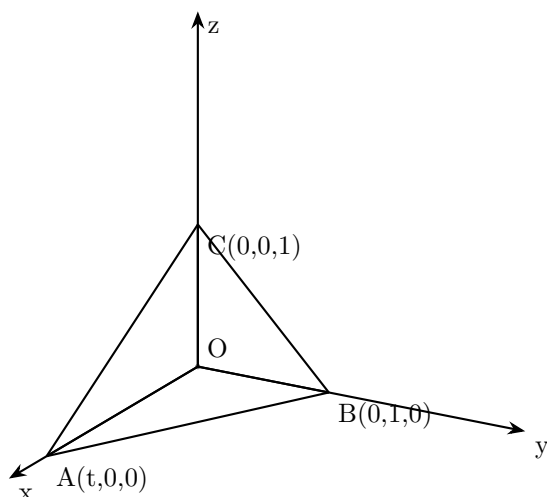


図 1: 四面体 $OABC$ の様子

四面体 $OABC$ の様子を fig. 1 に示す。四面体 $OABC$ の体積 V をふた通りで表すことで r と t の関係を導く。まず、底面 $\triangle OAB = t/2$ 、高さ CO の四面体と見なすことで、 V は

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{3} \triangle OAB \cdot CO \\ &= \frac{1}{3} \frac{t}{2} \cdot 1 \\ &= \frac{t}{6} \end{aligned} \quad (1)$$

と表せる。

次に、内接円の半径 r 、中心 P とすると、

$$V = \triangle POAB + \triangle POBC + \triangle POAC + \triangle PABC \quad (2)$$

と、4 つの四面体の体積の和として表せる。底面の三角形の面積はそれぞれ

$$\begin{aligned} \triangle OBC &= \frac{1}{2} \\ \triangle OAC &= \frac{t}{2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \triangle OAB &= \frac{t}{2} \\ \triangle ABC &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{AB}|^2 |\vec{AC}|^2 - (\vec{AB} \cdot \vec{AC})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(t^2 + 1)^2 - t^4} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{2t^2 + 1} \end{aligned}$$

だから、eq. (2) に代入して

$$V = \frac{r}{3} \left[\frac{1}{2} + t + \frac{1}{2} \sqrt{2t^2 + 1} \right] \quad (3)$$

である。従って、eq. (1) と eq. (2) が等しいので

$$\begin{aligned} \frac{t}{6} &= \frac{r}{3} \left(\frac{1}{2} + t + \frac{1}{2} \sqrt{2t^2 + 1} \right) \\ t &= r(1 + 2t + \sqrt{2t^2 + 1}) \\ \therefore r &= \frac{t}{1 + 2t + \sqrt{2t^2 + 1}} \end{aligned}$$

と表せる。…(答)

(2) P の体積 V_1 、四面体 $OABC$ の体積 V_2 、その比 $f(t) = \frac{V_1}{V_2}$ とおく。(1) から

$$\begin{aligned} V_1 &= \frac{4}{3} \pi r^3 \\ V_2 &= \frac{1}{6} t \end{aligned}$$

だから、 $f(t)$ は

$$\begin{aligned} f(t) &= 8\pi \frac{r^3}{t} \\ &= 8\pi \frac{1}{t} \left(\frac{t}{1 + 2t + \sqrt{2t^2 + 1}} \right)^3 \\ &= 8\pi \frac{t^2}{(1 + 2t + \sqrt{2t^2 + 1})^3} \end{aligned} \quad (4)$$

t を $t > 0$ で動かした時の $f(t)$ の最大値を求めれば良い。

そこで $f(t)$ の増減表を得るため、 $f'(t)$ を求める。

まず、

$$g(t) = 1 + 2t + \sqrt{2t^2 + 1} \quad (5)$$

とおくと $g'(t) = 2 + \frac{2t}{\sqrt{2t^2+1}}$ で,

$$\begin{aligned} f'(t) &= 8\pi \frac{2tg(t)^3 - 3t^2g(t)^2g'(t)}{g(t)^6} \\ &= \frac{8\pi t}{g(t)^4} [2g(t) - 3tg'(t)] \end{aligned}$$

よって $f'(t)$ の符号は $h(t) = 2g(t) - 3tg'(t)$ の符号にひ
としい. eq. (5) を代入して具体的に $h(t)$ の形を求めると

$$\begin{aligned} h(t) &= 2(1 + 2t + \sqrt{2t^2 + 1}) - 3t \left(2 + \frac{2t}{\sqrt{2t^2 + 1}} \right) \\ &= 2 - 2t + 2\sqrt{2t^2 + 1} - \frac{6t^2}{\sqrt{2t^2 + 1}} \\ &= \frac{2}{\sqrt{2t^2 + 1}} \left[(1-t)\sqrt{2t^2 + 1} + (1-t^2) \right] \\ &= \frac{2}{\sqrt{2t^2 + 1}} (1-t) \left(1+t + \sqrt{2t^2 + 1} \right) \end{aligned}$$

である. 符号が反転するのは $(1-t)$ の部分のみである.
従って $f(x)$ の増減表は table 1 のようになる.

表 1: f の増減表

t	0		1		(∞)
f'		+	0	-	
f	0	\nearrow		\searrow	0

よって求める最大値は $t = 1$ の時で, この時 eq. (5) より

$$g(1) = 3 + \sqrt{3}$$

だから

$$\begin{aligned} f(1) &= \frac{8\pi}{(3 + \sqrt{3})^3} \\ &= \frac{18 - 10\sqrt{3}}{9} \pi \end{aligned}$$

が求める最大値である. ... (答)

[解説] 求めた $f(t)$ の $t = 0, \infty$ で $f(t) = 0$ というのは
幾何学的に考えても自然なので, それらしい結果が出てい
ると安心できる. また, 答えが $t = 1$ の時なのは最もらし
く, この時三角形 ABC が正三角形になっている.

参考までに $f(t)$ は fig. 2 のようになる.

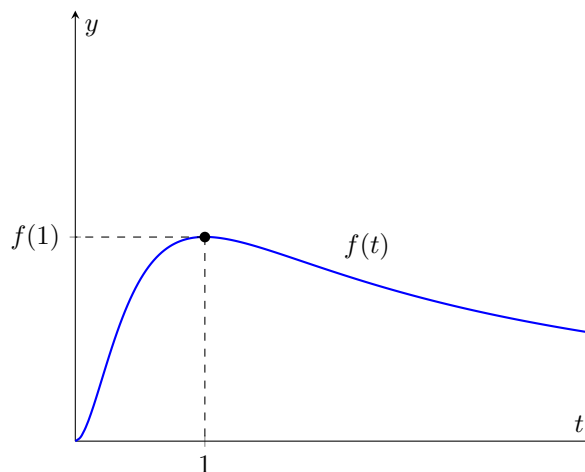


図 2: $f(t)$ の概形. $t = 1$ で最大値をとる.